

2025 AUTOBACS SUPER GT Rd.1 OKAYAMA GT 300KM RACE REPORT



SUPER GT 2025 第1戦 岡山GT300km レースレポート

開催日：公式予選 4月12日(土)／決勝 4月13日(日)

開催地：岡山県 岡山国際サーキット

予選レポート

4月12～13日、岡山国際サーキットにて「2025 AUTOBACS SUPER GT Round.1 OKAYAMA GT300KM RACE」が開催され、2025年シーズンの幕が開けた。PACIFIC RACING TEAMは、シリーズに参戦を開始した2010年からさまざまなコンテンツとタイアップしてきたが、今季は高い人気を誇る『アイドルマスター』シリーズとコラボレーション。9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」としてエントリーした。ドライバーは2024年に続き、阪口良平選手、冨林勇佑選手、藤原優汰選手の3名が継続と盤石の体制で臨む。開幕前の3月に実施された

二度の公式テストを終え、チームは万全の状態で開催戦の舞台となった岡山へと乗り込んだ。今回ドライブするのは阪口選手、冨林選手のふたりだ。

予選日となった4月12日(土)は朝から晴天に恵まれた。公式テストは低温や雨に悩まされたが、午前9時30分から行われた公式練習は気温15度、路面温度23度と終始ドライコンディションでの走行が叶い、予選に向けて絶好の調整の場となった。まず乗り込んだ冨林選手は連続で9ラップを周回し、このセッションでのベストとなる1分25秒725をマーク。続



く阪口選手はピットアウト～インを繰り返しつつ、27周を周回して1分26秒748まで自己ベストを更新し、クラストップから0.298秒差の4番手につける好調な走り出しを見せた。

ピットウォークを経て、午後2時からいよいよ公式予選を迎えた。昨季まではドライバーふたりのタイム合戦方式が採用されていたが、今季からはノックアウト方式に再度変更。Q1は前年のチームランキングに基づいて2グループに分けられ、Q1とQ2では異なるドライバーが担当する。その各上位9台がQ2に進出し、ポールポジションをかけて争う。

予選Q1のA組に出走した9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」

は、阪口選手がアタックを担当した。やや雲が増えたものの、気温23度／路面温度31度というコンディションとなったQ1で、阪口選手は自己ベストを更新していく。後半にかけてライバルもタイムを縮めていくなか、一時ノックアウトゾーンまで順位を下げていたが、ラストアタックで1分26秒495まで短縮することに成功。6番手で見事Q1を突破して見せた。

続く予選Q2を託された富林選手は、しっかりとタイヤを温めてセッション後半へのアタックに向けて準備を整えていく。すると、終盤の計測5周目、1分24秒815を叩き出して6番手に浮上。最後の1周はわずかに自己ベスト更新とはならなかったが、トップから0.395秒差の6番手につけ、3列目グリッドを獲得し、日曜日の決勝レースに向け好位置につけた。





決勝レポート

公式予選後の夜半から、岡山国際サーキットには雨が降り出し、決勝日の4月13日(日)は朝から雨模様。昼過ぎまで雨が降り続いており、午後1時10分からの決勝レースは気温13度／路面温度15度のウエットコンディションに。安全のためセーフティカー(SC)による先導で幕が開けた。スタートドライバーを努めた阪口選手はスタートに向けて念入りにウエットタイヤを温めていく。

レースは5周目にスタートが切られ、阪口選手も順位を守ったものの、直後にGT500クラスのアクシデントにより赤旗中断に。セーフティカーランに続き11周目から仕切り直しとなり再スタートが切られると、9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は7番手につけた。13周目には10番手まで順位を落としたが、水飛沫も激しく上がり視界不良の難しい状況下で阪口選手は順位をキープしていく。

雨の影響もあり随所でアクシデントが起き、セーフティカーランやフルコースイ



エロー (FCY) が導入される荒れた展開となったが、阪口選手はコース上の水量が減るとともに、順調にラップタイムを上げていく。ただ、時折雨がふたたび降るタイミングもあり、ライバルたちの中にはウエットタイヤからウエットでタイヤ交換を行うなど、チームによって戦略が分かれた。そんな中、GT300クラスでは序盤上位を走っていた#4 メルセデスが46周目にスリックに交換。阪口選手はレースの3分の2に近い規定周回のギリギリまで粘っていたが、スリックを履いていた#4 メルセデスのラップタイムが急激に上がっていく。

これを見てPACIFIC RACING TEAMも動く。ピットのタイミングをギリギリまで



遅らせていたことが功を奏し、51周目を走り切った阪口選手が自身のステントを終えてピットイン。ミスなく作業を終え、ステアリングを託された富林選手はスリックタイヤを履いてコースへと復帰した。ドライコンディションとなったフリー走行および予選で好感触を掴んでいた9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は、少しずつ回復するコンディションの下、好ペースで周回を続けた。

終盤もSCが入る展開となり、タイヤが冷えてしまう懸念もあったが、富林選手はその心配も跳ね除けて見事なリスタートを切った。7番手を走行中、残り2周で前方を走る車両がマシンを止めたため6番手に浮上すると、ファイナルラップでは混戦のなか5番手に順位を上げてチェッカーを受けた。

ウエットからドライへと変化する難しいコンディションとなったが、9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は5位でフィニッシュ。阪口選手と富林選手が難コンディションを乗り越え、見事14ポイントを獲得。昨季はシーズンを通してドライバーズポイントを獲得できなかった

が、開幕戦から好結果を残した。ドライバー、そしてチーム、中日本自動車短期大学(NAC)の学生メカニック全員の力が結びつき、幸先の良いスタートを切ることができた。

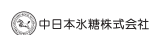
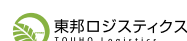
車両のポテンシャルも高く、次戦以降もさらなる上位を狙いたい。次戦となる第2戦富士は3時間レース。9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」はチーム一丸となり、表彰台および優勝を目指し準備を進めていく。

PARTNER



THE IDOLM@STER™ & ©Bandai Namco Entertainment Inc.

SPONSOR



Comment



エントラント代表
神野元樹

まずは、2025年もSUPER GTシリーズに参戦できることを嬉しく思います。スポンサーの皆さまをはじめ、関係者・関係各社の皆さまに厚く御礼申し上げます。

公式テストから好調さを感じていたこともありましたが、予選では阪口選手から富林選手のふたりの頑張りで6番手という素晴らしいグリッドを獲得してくれました。決勝は難しいコンディションの中で、ドライバーをはじめチームやNACの学生メカニックが一丸となり、展開を味方につけて5位という素晴らしい結果で終わることができました。熱いご声援を承りありがとうございました。次戦もさらに上位を目指して尽力して参りますので、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

僕がスタートを担当しましたが、ドライアップしていく状況が9号車に合っているということを理解していたので、ヨコハマタイヤユーザーの中でもピットのタイミングをかなり遅らせました。その分最初は辛く感じましたが、作戦的にはバッチリでしたね。5位という結果を残せて嬉しいです。成績が上がるとメカニックのモチベーションも上がるのを見ていると分かるので、すべてが良い方向に向かっていると感じます。最高のパフォーマンスで走り切れたので、良い開幕戦でした。



阪口良平 選手



富林勇佑 選手

アウトラップは厳しい状態でしたが、思ったよりもうまくこなせました。最後にFCYが出た際はタイヤが冷えて厳しい状態を予想していましたが、チームがタイヤの内圧の設定を良い状態にしてくれていたおかげで、最後に追い上げることができました。チームのみんなと厳しい中でも繋いでくれた阪口選手のおかげで良い形で終わることができました。次戦はチームと相談しながらパワーアップできるように、取りこぼしのないようなレースができればと思っています。

